

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月29日

北海道教育委員会教育長 様

北海道野幌高等学校長

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 生徒の一人一人の特性に応じた指導と社会に開かれた教育課程の実践
- (1) 生徒個々の特性に応じた学びの深化に向けたカリキュラム・マネジメント
 - (2) 生命の尊厳と多様性の尊重に基づく、自己の可能性を高める人間力の育成
 - (3) 生徒一人一人に目を向けたキャリア教育とときめ細かな進路指導の充実
 - (4) 健康の保持増進と安全意識の醸成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
組織・運営	- 情報の共有化と連携については、管理職及び教諭間の報告・連絡・相談は頻繁に行われているが、分掌内や分掌及び学年間の情報共有の不足があった。 - 組織改善や業務の効率化に向けた業務の改善が、働き方改革コアチームを中心に進められたが、全教職員の意識改革や理解の促進は十分とは言えなかった。	- 保護者や地域と連携した取組と迅速かつ適切な対応については、校内での情報共有に時間がかかり、結果として家庭への連絡が遅くなるケースがあった。 - 自己評価では、校内研修の充実を肯定的に捉える結果となったが、保護者アンケートでは、結果が低く、研修成果の公表や還元が今後の課題となる。
改善方策	- 報告・連絡・相談については、分掌や学年団で情報を収集・整理するように年度初めに再確認するとともに、緊急かつ波及性の高い事案は、速やかに校内で情報共有できるように報告経路を改めて全教職員に周知する。 - 組織改善や業務の効率化にむけては、コアチームからの発信のみではなく、分掌の意見を積極的に収集するなどボトムアップで企画・立案するように転換していく。	
学習指導	1学年3教科のベーシック授業をはじめとする学び直しの成果は各教職員実感することができている。 - 生徒の主体性を引き出す指導の工夫という点が今後の課題である。	- 保護者アンケートの記述に、生徒の実態を踏まえた指導が感じられないという意見があった。 - 自己評価同様に、生徒の主体性を引き出す指導の工夫は低い結果となっている。
改善方策	- 基礎力診断テストや学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科何に取り組むのか明確にし、教職員に共有する機会を設ける。 - 各教科の重点指導項目を積極的に生徒や保護者に周知し、到達の度合いを共有しながら、個別最適な学習の充実を図る。 - 不登校生徒のオンライン授業を積極的に実施する。	
生徒指導・教育相談・健康安全	- 生徒理解に関する項目の数値が大幅に改善されたのは、教育相談体制が充実した結果と受け止めている。 - 生徒の自己肯定感を高める指導については、多くの教職員が困難に感じているという評価だった。	- 生徒指導に関して、保護者・地域・関係機関との連携について、低い評価となった。 - 生徒の自己肯定感を高める指導については、自己評価と対照的に高評価となっている。
改善方策	- 教職員の抱え込みをなくし、外部の専門家や機関につなぐよう管理職から指導・助言を行う。 - 教職員の教育相談に関わる資質・能力を向上する研修を実施する。	
進路指導	「キャリアパスポート」の活用については、多くの高校同様、本校でも進んでいるとは言えず、低い評価となった。 - 資格取得やインターンシップについては、主体的な取組となっていないのではないかとこの声や評価が多かった。	- 地域機関と連携したインターンシップやキャリア教育については、高い評価が得られなかった。 - キャリアプランニング能力や未来を切り拓こうとする姿勢については、関係者や保護者の評価も低い結果となった。
改善方策	「キャリアパスポート」については、中学校からの引き継ぎや情報の共有のあり方について、引き続き検討を重ねる。 - 次年度入学生から、総合的な探究の時間の計画を全面的に刷新することから、キャリア教育の視点からインターンシップや探究活動を充実させる転機としたい。	
公表方法	本校ホームページ上での公表及びPTA総会での公表	

3 添付資料 令和5年度学校評価の結果